

殺菌剤

石原トリフミン水和剤



殺菌剤分類

3

農林水産省登録	第16301号
有効成分	トリフルミゾール・・・・・・・・・・ 30.0%
性状	類白色水和性粉末 45 μ m以下
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
有効年限	4年
包装	(100g \times 25袋) \times 4函 (250g \times 15袋) \times 4函 (500g \times 10袋) \times 2函

特長

✓ 広範の病害にすぐれた効果
多くの病害に効果があり、防除の困難な病害の基幹防除剤として適しています。

✓ 浸達性を有し、すぐれた耐雨性
浸達性がありますので耐雨性にすぐれ、降雨による効力低下の少ない薬剤です。

✓ 予防・治療にすぐれた効果
すぐれた予防効果に加えて治療効果もありますので、病原菌が侵入した後の散布でも病斑の拡大や孢子形成を阻止します。

適用作物と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トリフルミゾールを含む農薬の総使用回数		
りんご	斑点落葉病 黒星病 うどんこ病 赤星病	2000～3000倍	200～700ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内		
なし	黒星病 赤星病								
かき	うどんこ病	2000倍							
	黒点病	2000倍							
ぶどう	うどんこ病	2000～3000倍		収穫7日前まで					
	黒とう病 褐斑病	2000倍							
もも	灰星病 黒星病	1000～1500倍		収穫前日まで					
	うどんこ病	1500～2000倍							
すもも	灰星病	1000倍		収穫14日前まで				2回以内	2回以内
おうとう		1000～1500倍						3回以内	
うめ	黒星病	2000倍							
いちじく	株枯病	500倍	1～10ℓ/株	収穫前日まで	4回以内	灌注	7回以内 (散布は3回以内、灌注は4回以内)		
	さび病 そうか病	2000倍	200～700ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内		
マルメロ	赤星病								
かりん									
あけび(果実) マンゴー	うどんこ病								
稲	ごま葉枯病 いもち病 ばか苗病	30倍	—	浸種前	1回	10分間 種子浸漬	1回		
		300倍				24～48時間 種子浸漬			
		乾燥籾重量の 0.5%	乾燥種籾1kg当 り30ml			種子粉衣 (湿粉衣)			
		7.5～15倍				種子吹き付け処 理 (種子消毒機使 用)			
麦類	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 網斑病	種子重量の0.5%	—	は種前	3回以内 (種子粉衣は1 回以内)	種子粉衣			
	うどんこ病 赤かび病	1000～2000倍	60～150ℓ	収穫14日前まで					
とうもろこし (子実)	すす紋病	2000～4000倍	100～300ℓ	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内		
未成熟とうもろ こし				収穫7日前まで					
かんしょ	基腐病	16倍	0.8～1.6ℓ	収穫前日まで	2回以内	無人航空機によ る散布	3回以内 (植付前の処理 は1回以内、植 付後は2回以 内)		
		2000～3000倍	100～300ℓ			散布			
	500倍	—	植付前	1回	17時間苗基部浸 漬				
	つる割病	500倍	—	植付前	1回	17時間苗基部浸 漬			
いちご	じゃのめ病 輪斑病	3000倍	100～300ℓ	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内		
	うどんこ病	3000～5000倍							
メロン	うどんこ病	3000～5000倍							
	陥没病 つる枯病	3000倍							
すいか	うどんこ病	3000～5000倍							
	つる枯病	3000倍							

さやえんどう 実えんどう ピーマン	うどんこ病	3000~5000倍					
きゅうり	うどんこ病 黒星病						
	つる枯病	3000倍					
かぼちゃ	うどんこ病	3000~5000倍					
	フザリウム立枯病	種子重量の0.3%	—	は種前	1回	種子粉衣 (湿粉衣)	5回以内 (種子粉衣は1 回以内)
にがうり にんじん	うどんこ病	3000倍			3回以内		3回以内
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯病 炭疽病	3000~5000倍					
トマト ミニトマト	葉かび病		100~300ℓ	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
	すすかび病 うどんこ病	3000倍					
なす	うどんこ病	3000~5000倍					
	すすかび病	3000倍					
しそ	さび病	5000倍		収穫開始10日前 まで	3回以内		3回以内
ねぎ	萎凋病	50倍	—	定植直前	1回	5~30分間 苗根部浸漬	1回
		100倍	セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊 (30×60cm、 使用土壌約 5ℓ) 当り0.5ℓ	定植前		苗床灌注	
		200倍	セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊 (30×60cm、 使用土壌約 5ℓ) 当り1ℓ				
たまねぎ	乾腐病	50倍	—	定植直前	1回	5分間 苗根部浸漬	1回
		50~100倍	セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊 (30×60cm、 使用土壌約 5ℓ) 当り0.5ℓ	定植前		苗床灌注	
		100倍	セル成型育苗ト レイ1箱または ペーパーポット 1冊 (30×60cm、 使用土壌約 5ℓ) 当り0.5~ 1ℓ				
オクラ	黒斑病 うどんこ病 葉すす病	5000倍	100~300ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
セルリー	斑点病	2000倍			2回以内		2回以内
こんにゃく	乾腐病	50倍	種いも1㎡当り 150ml	植付前	1回	種いもの芽基部 に散布	1回
らっきょう			—			5~30分間 種球浸漬	
アスパラガス	立枯病	1000倍	3ℓ/㎡	収穫7日前まで	5回以内	5分間 種球浸漬	5回以内
	食用ゆり	鱗茎さび症	—	植付前		灌注	
とうがらし類	うどんこ病	4000~5000倍		収穫前日まで	5回以内	種球瞬間浸漬	5回以内
ごぼう		1000倍					

ふき				収穫14日前まで	3回以内		3回以内
ふき (ふきのとう)	うどんこ病 さび病	3000倍	100~300ℓ	収穫45日前まで	3回以内	散布	3回以内
パセリ	うどんこ病	8000倍		収穫30日前まで			
しょうが	褐色しみ病 白星病	1000倍		収穫前日まで	5回以内		5回以内
葉しょうが	白星病	2000倍		収穫7日前まで	3回以内		3回以内
にら	さび病		収穫14日前まで				
にんにく	葉枯病		収穫前日まで				
茶	炭疽病	1500~2000倍	200~400ℓ	摘採14日前まで			
	もち病	1000~1500倍					
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.2%	—	植付前	1回	球根粉衣	1回
ばら	うどんこ病	3000~5000倍	100~300ℓ	発病初期	5回以内	散布	5回以内
きく	白さび病	1000倍					
	うどんこ病	3000倍					
花き類・観葉植 物(ばら、きく を除く)	うどんこ病						
樹木類(しきみ を除く)			60倍	10~30ℓ			
しきみ							
たばこ		5000倍	25~180ℓ	収穫10日前まで	2回以内	散布	2回以内

※本内容は2024年3月27日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

- かきの黒点病に対しては、多発時には効果が劣る場合があるので注意してください。
- なしの品種「幸水」に使用する場合は、樹勢が弱いと高濃度で葉に軽度な黄斑を生じる場合があるので、所定範囲内の低濃度で使用してください。
- なしに使用する場合は、MEP剤との混用により薬害を生じるおそれがあるので教えてください。
- いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合は、次のことに注意してください。
 - ・1ヶ月間隔で使用してください。
 - ・根域に対する処理量が著しく多いと、生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、根域に合わせて処理量や回数を調整してください。
- ウリ科作物の幼苗期には、濃緑化症状および生育抑制が生じることがあるので、使用しないでください。
- スイトピーに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、開花期以降は使用を教えてください。
- りんごに使用する場合は、黒星病、赤星病およびうどんこ病の防除を主体とし、斑点落葉病に対しては落花後20日頃までの初期防除剤として使用してください。
- チューリップの球根粉衣に使用する場合は、適当な容器内で球根に本剤を均一に粉衣してから植付けてください。
- カラーおよび花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用后14日間は入水しないでください。
- 水稲の種子消毒に使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ・種子消毒は浸種前に行ってください。
 - ・浸漬処理の場合、籾と処理薬液の容量比は1：1以上とし、種籾はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - ・粉衣処理の場合は付着をよくするため、湿粉衣としてください。
 - ・吹き付け処理の場合は、種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥してください。
 - ・処理した種籾は、風乾後、水洗いせずに浸種してください。
 - ・消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として初めの2日間は行わず、その後換水する場合は静かに行ってください。
 - ・粉衣処理、高濃度浸漬処理（30倍）および吹き付け処理をした種子を播種する場合は、浸種終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてください。
 - ・軽度の初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ・散布は散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - ・散布機種種に適合した散布装置を使用してください。
 - ・散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ・散布薬液の飛散によって自動車の塗装などに被害を与えるおそれがある等、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - ・散布終了後は機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また、使用後の空の袋は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意事項



- 通常の使用方法では危険性は低いですが、誤飲、誤食などのないように注意してください。万一飲み込んだ場合は吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には、安静にして直ちに医師の手当を受けてください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落してください。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また、薬剤を吸い込んだり浴びたりしないように注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

魚毒性等

- ・ 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川・養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- ・ 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- ・ 浸漬後の薬液は河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管

密封し、直射日光をさけ、食品と区別して冷涼・乾燥した所に保管してください。